

福智町防災備蓄基本計画

令和4年1月

令和5年3月改定

令和8年3月改定

福 智 町

－ 目 次 －

1	はじめに	1
2	備蓄に係る基本的な考え方について	1
3	家庭における備蓄【自助】	1
4	自主防災組織における備蓄【共助】	2
5	事業所における備蓄【共助】	2
6	町による備蓄【公助】	2
7	町としての備蓄品の必要量及び目標量	3
8	物資の調達について	4

《資料》備蓄品年次整備計画表【飲食料】

1 はじめに

本計画は、「福智町地域防災計画」に基づき、大規模災害が発生した場合の被害を想定し、東日本大震災や阪神・淡路大震災、平成 28 年（2016 年）熊本地震、能登半島地震を教訓に、被災者の避難生活に必要な物資の備蓄・調達等について定めたものである。

また、基本的な方向性については、総務省消防庁の「緊急物資等の備蓄・調達に係る基本的な考え方」及び「福岡県備蓄基本計画（平成 26 年 3 月）」に準じて策定を行う。

福智町の備蓄量については、令和 7 年 9 月に福岡県防災危機管理局より「地震に関する防災アセスメント調査報告書」による避難者数を基本的ベースとし、福智町の備蓄計画を進めていく。

なお、備蓄に関する新たな課題等が生じた場合等には、その都度検討し、必要に応じて修正を加えていくものとする。

2 備蓄に係る基本的な考え方について

本計画における災害時の備蓄体制の構築については、①自助（自ら身は自らで守る・家庭における備蓄）、②共助（地域等で助け合う・自主防災組織や事業所等における備蓄）、③公助（公的機関が支援を行う・町による備蓄）の考えにより実施することとする。

このため、平素から町民、自主防災組織、事業所等が災害時に必要な物資を備蓄しておくことを基本とし、公助による備蓄及び調達は自助・共助による備蓄を補完する目的で行うものとする。

また、町は、町民、自主防災組織、事業所等による備蓄意識の向上に向け、多様な手段を用いて普及啓発を推進する。

本計画は 5 ヶ年計画とし、5 ヶ年で地域に備蓄品を配備することを基本的な考え方とする。本件計画を進めていくにあたり、民間企業（食料品・飲料水・その他災害に必要な物品を常時取り扱っている店舗）の協力体制を強化するなど、民間企業との協力体制を視野に目標備蓄量の整備を進める。

また、近年ではローリングストックの考え方が推奨されており、各家庭での備蓄協力を推進し本計画の目標備蓄量の整備を進める。

なお、目標備蓄量が増えたことにより、福智町の施設のみでの備蓄品保管が困難となることが想定される。このような場合を想定し、本計画では、備蓄品配備場所として、公民館・集会所・消防団格納庫等に備蓄品を配備することを視野に進めていく。

また、備蓄品の保管・運営についても備蓄品保管場所で開催できる体制を整備し、地域への分散備蓄を強化することで、地域防災力強化に繋げることを基本的な計画の考え方とする。

3 家庭における備蓄【自助】

災害発生時にはライフラインの途絶等の事態が予想され、飲食料その他生活必需品の入手が困難になるおそれがあるため、各家庭においては、飲料水、食料その他生活必需品等について、可能な限り 1 週間分程度、最低でも 3 日間分の家庭内備蓄に努めるものとする。

この場合において、飲料水、食料等の賞味期限がある物資を備蓄するときは、期限に留意し、定期的に更新することとする（ローリングストック法の活用）。

各家庭が備蓄すべき物資の目安は、以下の品目を最低 3 日間、できれば 1 週間分とする。

【参考】家庭における備蓄品目の例

- ・ 飲料水（１人１日分３リットル）
- ・ 食料
- ・ 生活物資（救急セット、医薬品、マスク、消毒液、体温計、簡易トイレ、トイレットペーパー、生理用品等）
- ・ 高齢者、障がいのある人、乳幼児その他の特に配慮を必要とする者（以下「要配慮者」という）が必要とする物資（柔らかく飲み込みやすい食料、粉ミルク、哺乳びん、離乳食、ガスコンロ、ガスボンベ、紙おむつ、アレルギー対応食品等）

※ 家庭における「非常持ち出し袋」の準備

飲料水、食料、衣類、医薬品、マスク、消毒液、体温計、懐中電灯、ラジオ、乾電池、救急セットや貴重品等を入れた「非常持ち出し袋」を、すぐに持ち出せるように準備しておくことが重要

4 自主防災組織における備蓄【共助】

災害発生時において、初期消火の実施や地域内の被害状況等の情報収集、救出・救護の実施等の役割を担う自主防災組織においては、防災用資機材等の備蓄及び管理に努めるものとする。

また、住居等の被災により個人が備蓄物資を持ち出すことができない場合を考慮し、飲料水、食料、生活物資の共同備蓄についても検討する。この場合において、飲料水、食料等の賞味期限がある物資を備蓄するときは、期限に留意し、定期的に更新することとする。

自主防災組織において備蓄すべき物資の目安は、以下のとおり

【参考】自主防災組織における備蓄品目の例

- ・ 初期消火、救出・救護、避難誘導、避難所運営等に必要な資機材（要配慮者も想定）
- ・ （共同備蓄を行う場合）家庭と同様の飲料水、食料、生活物資を３日以上

5 事業所における備蓄【共助】

災害発生後、事業所としてのサービスの継続やいち早い復旧を図るため、また、発災直後の一斉帰宅により帰宅困難者が大量に発生することによる混乱を避けるため、従業員等を一定期間事業所内に留め置く必要がある。このため、事業所は、従業員等の３日以上分の飲料水、食料や生活物資の備蓄に努める。この場合において、飲料水、食料等の賞味期限がある物資を備蓄するときは、期限に留意し、定期的に更新することとする。

また、集客施設等を有する事業所は、来客の一時的な滞在を想定した備蓄を検討する。

事業所において備蓄すべき物資の目安は、以下の品目を３日以上とする。

【参考】事業所における備蓄品目の例

- ・ 飲料水（１人１日分３リットル）
- ・ 食料
- ・ 生活物資（毛布、衣類、マスク、消毒液、体温計、簡易トイレ、トイレットペーパー、生理用品、口腔衛生用品等）
- ・ 要配慮者が必要とする物資（柔らかく飲み込みやすい食料、粉ミルク、哺乳びん、離乳食、ガスコンロ、ガスボンベ、紙おむつ、アレルギー対応食品等）

6 町による備蓄【公助】

町は、大規模災害が発生した場合に備え、飲料水、食料、生活必需品等の備蓄を現物で備蓄するものとする。また、現物以外の備蓄物資については、食品製造業者や小売業者等との協定により、備蓄物資を迅速かつ的確に供給できるよう、体制及び連携の強化を図るものとする。大規模災害時には、物資供給協定を締結した事業者が被災し、調達が困難となることも想定されるため、多様な調達先の確保に努める。

町の備蓄及び調達で不足する場合は、県に応援を求めるほか、『災害時における福岡県内市町村間の相互応援に関する協定』に基づき、県内の非被災市町村に備蓄物資等の提供を求めるものとする。

備蓄品目については、発災直後の生命維持や生活に最低限必要な飲食料等の物資、感染症対策用物資、避難所運営に必要な資機材、その他必要と判断される物資を揃えるものとする。具体的な品目の選定に当たっては、下記の例を参考とするほか、要配慮者等のニーズや男女のニーズの違いを踏まえること。

【参考】町における備蓄品目の例

- ・ 飲料水（1日分3リットル）
- ・ 食料（アルファ化米、缶詰パン、おかゆ、副食等）
- ・ 粉ミルク・液体ミルク（乳幼児用、アレルギー対応ミルク）
- ・ 栄養補助食品
- ・ 毛布
- ・ タオル、タオルケット
- ・ ティッシュペーパー、ウエットティッシュ、ペーパータオル
- ・ トイレットペーパー
- ・ 給水袋（水を入れたときに高齢者でも運べるもの）
- ・ 食器セット
- ・ ほ乳瓶
- ・ 紙おむつ（小児用・大人用）、尿とりパッド（大人用）
- ・ 生理用品
- ・ 簡易トイレ（便袋）
- ・ 仮設トイレ
- ・ 歯ブラシ、歯磨き粉等の口腔衛生用品
- ・ マスク、消毒液、使い捨て手袋、フェイスシールド、感染防護服等の感染症対策用品
- ・ 体温計（非接触型）
- ・ パーティション
- ・ 段ボールベッド等の簡易ベッド
- ・ ブルーシート、マット等の指定避難所の床に敷くもの
- ・ ガスコンロ及びガスボンベ
- ・ 発電機（燃料及び燃料保管容器）
- ・ 蓄電池
- ・ 投光器、懐中電灯

7 町としての備蓄品の必要量及び目標量

「福岡県備蓄基本計画」に基づき、地域の実情を踏まえて、町としての備蓄品の必要量及び目標量を設定する。

必要量については、福智町に最も影響を及ぼすと考えられる「福智山断層帯」の地震による最大の避難者数を想定する。あわせて、「福智町業務継続計画（BCP）」における災害対応時の職員用の備蓄についても考慮することとする。

飲料水、食料等の物資は想定される最大避難者数の1日分（3食分）（職員においては3日分（9食分））を、避難所運営資器材は最大規模の災害発生時に必要と想定される量の3分の1を、現物で備蓄する。

目標量については、総務省消防庁の「緊急物資等の備蓄・調達に係る基本的な考え方」及び「福岡県備蓄基本計画（平成26年3月）」の想定に基づき、各家庭での備蓄の状況や流通備蓄等を踏まえ、令和12年度を目標に計画的に備蓄を推進していくものとする。

なお、必要量及び目標量の設定については、令和8年度の下記の数値を基準として算出するものとする。年度毎の整備計画については、別表に示すとおりとする。

【更新必要備蓄量】

	1日当たり	目標日数	目標量（1日/3食）
最大想定避難者数	1,200人	1日分	1,200人×3食=3,600食
令和8年度福智町職員	257人	3日分	257人×3日×3食=2,313食
合計	1,457人	—	5,913食

※合計備蓄量の増加分の算定：5,913食－2,820食=3,093食

【既存必要備蓄量】

	1日当たり	目標日数	目標量
最大想定避難者数 ※1	214人	1日分	214人
令和3年度福智町職員 ※2	242人	3日分	726人
合計延べ人数	456人	—	940人
合計食数	1,368食	—	2,820食

【※1】福岡県「地震に関する防災アセスメント調査報告書（令和7年9月）」

最大想定避難者数は西山断層帯北西下部震源の地震に起因するもの。

【※2】令和8年4月1日時点（再任用職員含む。会計任用職員は除く。）

【※3】粉ミルクは1回あたり200ml（粉ミルク換算で26g）とし、1日当たり5回分（粉ミルク換算130g）を必要量とする。粉ミルク必要乳幼児数を10人として算出する。なお、備蓄については、子育て支援担当課のストック分を使用するものとする。

《目標量》10人×130g/日×3日=3,900g

【※4】飲料水は1人あたり1日3リットルが必要である。また、飲料水以外にも他の備蓄品の調理等に利用するため、目標量より多めに備蓄するものとする。

《目標量》940 人×3 リットル=2,820 リットル

8 物資の調達について

本町では、飲食料や生活必需品等の物資を販売している事業者等との災害協定を締結し、災害時に必要な物資（流通物資）を速やかに調達する体制を整備している。今後も、災害時における町の備蓄物資を保管し、流通物資を早期に調達するため、協定締結の推進を図る。また、必要備蓄量増加に伴い、福智町にある小売店との防災協定締結を拡大し、増加分の備蓄量を補填できる体制に努める。

《 物資提供関係協定一覧（令和8年度時点） 》

協定の名称	締結先	締結日
災害時における物資供給に関する協定書	株式会社トライアルカンパニー	平成28年11月1日
災害時における物資の調達及び供給に関する協定書	株式会社グッディ	令和元年11月29日
災害発生時における段ボール製品の調達に関する協定書	八谷紙工株式会社 セツカートン株式会社	令和3年1月31日
災害時における物資供給に関する協定書	株式会社ナフコ	令和3年3月17日
災害時における物資供給に関する協定書	NPO法人 コメリ災害対策センター	令和6年9月17日
災害時における物資の調達及び供給に関する協定書	株式会社グリーンケミー	令和8年4月1日

《別表》 備蓄品年次整備計画表【飲料水】

品目	目標量	現有備蓄数 (R2年度末時点)	年次整備計画					
				R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
アルファ化米	5,913食	2,850食	購入	612食	612食	612食	612食	1,115食
			訓練等使用					△500食
			合計備蓄数	3,462食	4,074食	4,686食	5,298食	5,913食
お粥	350食	100食	購入	50食	50食	50食	50食	150食
			訓練等使用					△100食
			合計備蓄数	150食	200食	250食	300食	350食
缶詰（パン）	1,368食	450食	購入	200食	300食	300食	300食	300食
			訓練等使用			△200食		△250食
			合計備蓄数	650食	950食	1,050食	1,350食	1,400食
副食（缶詰等）	5,913食	2,850食	購入	612食	612食	612食	1,262食	1,265食
			訓練等使用				△1,300食	
			合計備蓄数	3,462食	4,074食	4,686食	4,648食	5,913食
栄養補助食品 (菓子類・乾パン 含む)	5,913食	2,850食	購入	612食	612食	612食	612食	1212食
			訓練等使用					△600食
			合計備蓄数	3,462食	4,074食	4,686食	5,298食	5,913食
スープ類	940食	0食	購入	190食	190食	190食	190食	190食
			訓練等使用					
			合計備蓄数	190食	380食	570食	760食	950食
粉ミルク	3,900g	0g	購入	3,900g	3,900g	3,900g	3,900g	3,900g
			訓練等使用		△3,900g	△3,900g	△3,900g	△3,900g
			合計備蓄数	3,900g	3,900g	3,900g	3,900g	3,900g
飲料水	3,100リットル	600リットル	購入	500 ^{リットル}	500 ^{リットル}	500 ^{リットル}	500 ^{リットル}	500 ^{リットル}
			訓練等使用					
			合計備蓄数	1,100 ^{リットル}	1,600 ^{リットル}	2,100 ^{リットル}	2,600 ^{リットル}	3,100 ^{リットル}